

目的 衣服重量は、一般には保温力に比例すると考えられているが、衣生活において、衣服材料も複雑になり、また衣服の種類・衣服の構成も多様化している。従つて、これらの相互的關係を調査研究し、衣服衛生学的立場から検討した結果を報告する。

方法 着装における衣服重量等を1979年4月(春)・7月(夏)に、小学生5年・6年、中学生1年・2年の男子約160名と女子約160名を対象に調査した。調査方法はアンケートと着衣の衣服重量を計測する方法を用いた。男女別の資料をHITAC10-2により整理し、単位体表面積当りの衣服重量を、(1)荷重分布、(2)着衣枚数、(3)衣服構成、(4)衣服材料との相互關係により検討した。

結果 単位体表面積当りの衣服重量(g/m^2)の平均値はつぎのようである。

		0~200	201~400	401~600	601~800	801~1000	1001~1200	1201~1400	1401~1600	1601~1800	総平均値	標準偏差
4月	男			530.49	707.65	881.13	1085.89	1301.57	1496.09	1730.08	978.67	287.76
	女		339.68	501.90	694.65	902.26	1025.99	1280.69	1424.12	1605.34	794.69	236.29
7月	男	139.40	321.50	512.03	652.90	900.98	1116.24	1229.20			477.00	170.23
	女	164.95	319.71	459.34	671.20						363.11	106.15

表より解るように、7月は4月より男子50.67%減となり、女子は43.58%減で男女いづれも7月の衣服重量%は4月の半以下となる。男女の衣服重量%の総平均値を比較すると女子は男子より軽量である。また単位体表面積当りの衣服重量%は着衣枚数や衣服構成との相関が相当高い。しかし衣服材料との相関は顕著な関係は認められなかった。